

小 学 校

平 成 4 年 度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

平成4年度

教 育 研 究 員

| 地 区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|--|---------------|-----------|
| 新 宿 江 東 大 田 中 野 杉 並 板 橋 練 馬 足 立 葛 飾 江 戸 川 調 布 国 分 寺 多 摩 日 の 出 | 四 谷 第 五 小 学 校 | 芳 賀 理 恵 子 |
| | 水 神 小 学 校 | 豊 田 美 代 子 |
| | 馬 込 小 学 校 | 池 田 順 子 |
| | 沼 袋 小 学 校 | ◎ 大 湊 勝 弘 |
| | 四 宮 小 学 校 | 武 内 享 子 |
| | 下 赤 塚 小 学 校 | 富 岡 達 也 |
| | 中 村 小 学 校 | □ 荒 井 弘 子 |
| | 舎 人 第 一 小 学 校 | △ 宮 越 隆 |
| | 亀 青 小 学 校 | 安 藤 希 與 子 |
| | 第 三 松 江 小 学 校 | 山 田 泰 子 |
| 第 二 小 学 校 | 稲 葉 谷 隆 | |
| 第 六 小 学 校 | △ 寺 澤 千 代 子 | |
| 聖 ケ 丘 小 学 校 | 六 戸 晴 美 | |
| 平 井 小 学 校 | 田 中 篤 子 | |

世話人◎ 副世話人□ 記録△

担 当 課 長 小 島 宏 教育庁指導部初等教育指導課

担 当 指 導 主 事 小 川 勝 教育庁指導部初等教育指導課

目 次

| | | |
|-----|----------------|----|
| I | 研究主題設定の理由 | 2 |
| II | 研究の方法 | 3 |
| 1 | 児童の実態と目指す児童像 | 3 |
| 2 | 研究仮説と明らかにすべきこと | 3 |
| 3 | 研究の構想図 | 4 |
| III | 研究の内容 | 5 |
| 1 | 研究を進めるに当たって | 5 |
| (1) | 主体的な音楽活動 | 5 |
| (2) | 感じ取ること・深めること | 6 |
| 2 | 感じ取ることを深める活動 | 7 |
| (1) | 感じ取る活動 | 7 |
| (2) | 感じ取ることを深める活動 | 10 |
| 3 | 教師の手立て | 12 |
| (1) | 教材開発・研究と指導 | 12 |
| (2) | 授業形態の工夫 | 13 |
| (3) | 楽器・機器・教具の活用 | 13 |
| (4) | 指導の言葉かけ | 14 |
| (5) | 基礎・基本の定着 | 14 |
| (6) | 評価の工夫 | 15 |
| IV | 指導事例 | 16 |
| 1 | 聴く活動を中心とした事例 | 16 |
| 2 | 選ぶ活動を中心とした事例 | 18 |
| 3 | つくる活動を中心とした事例 | 20 |
| 4 | 合わせる活動を中心とした事例 | 22 |
| V | 研究のまとめと今後の課題 | 24 |

主体的に音楽活動をする子供を育てる指導法の研究
—— 感じ取ることを深める活動を通して ——

Ⅰ 研究主題設定の理由

今、子供たちのまわりには、いろいろな音が満ちあふれている。音楽的な美しい音から耳ざわりな音まで、好むと好まざるとに関わらず、音・音楽は、子供たちに押し寄せている。この多様な音を子供たちはどのように感じているのだろうか。

安らかな心で音や音楽を感じ取って欲しい……そんな願いを込めて「耳をすましてごらん」と子供たちに言葉かけをする。しかし、子供たちは、音や音楽に対して無関心になって聴き流してしまったり、安易な音楽に興味をもってしまったりすることが多いのではないだろうか。

私たち教師は、児童一人一人が音楽活動に意欲的に取り組み、音楽の美しさ・楽しさや成就感を味わい、音楽の好きな児童に育って欲しいと願っている。

この願いを達成させるには、“自分で考え、取り組むことができない”“音楽を自分のものとして感じ取り表現することができない”といった児童を育ててしまったこれまでの授業の在り方を改め、児童の感じ方、表現の仕方を大切に学習を展開する必要がある。

児童自身が“やってみたい”“できそうだ”と感じられるような音楽との出会いの工夫や“こう表したい”“こんな感じで歌ってみたい”という意欲をかきたて、引き出し、それを生かす指導の工夫が必要である。そのためには、教師は児童の前面に立って教え込む指導を改め、児童の側に立って児童を温かく見守りながら支援する立場で学習を展開し、児童自らが主役となって活動する音楽学習が進められるようにすることが大切である。

このような指導観に基づき、基礎・基本を大切にしながら一人一人のよき、感じ方、考え方を生かした学習活動を展開することにより、児童は音楽学習に興味・関心をもち、積極的に音楽と関わるができるであろう。また、児童の心情に合った教材の選択・開発や感性をゆさぶる指導により、児童は、より深く音楽の美しさを感じ取ることができるであろう。

私たちは、普段何気なく見過ごしてしまいそうな子供たちの僅かな進歩や感性の動きを見逃さない鋭い目、それを認める温かい心をもって、児童の音楽の感じ方を深め・広げる手立てを追究し、児童一人一人が音楽の美しさ・楽しさを感じ取り、主体的に音楽活動に取り組むことができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の方法

新しい学力観・評価観に基づいた教育課程が実施され、音楽教育の在り方が問われ、教師と児童のかかわり方の見直し、指導法の改善が今、求められている。

私たちは研究を進めるに当たって、児童の実態把握と目指す児童像を設定した。さらに、理想の児童像に迫るために自らの授業を振り返り、何をすればよいのか話し合い、課題を明らかにして仮説を設定し、授業研究を通して実践的に研究を進めていくことにした。

1 児童の実態と目指す児童像

(1) 児童の実態

*受け身的である。

・教師から言われたことはできるが、自分から考えて取り組むことができない。

*表現能力や知識理解に欠ける。

*新しいものに興味をもって取り組む。

・初めての曲や楽器に興味や関心を示して取り組むが、深く味わったり、追究したりすることが十分できない。

(2) 目指す児童像

*主体的に音楽活動をする子

2 研究仮説と明らかにすべきこと

主体的な児童を育てるために、私たちはこれまでの指導が技能や知識を教え込む傾向が強かったことを反省し、児童自身の感じる心を重視した指導の在り方を、次のような仮説と授業研究を通して究明していくことにした。

(1) 研究仮説

感じ取る活動を大切にした学習を展開し、児童一人一人の音楽の感じ方を深め広げることにより、児童は音楽への興味・関心・意欲を高め、主体的に音楽活動に取り組むことができるようになる。

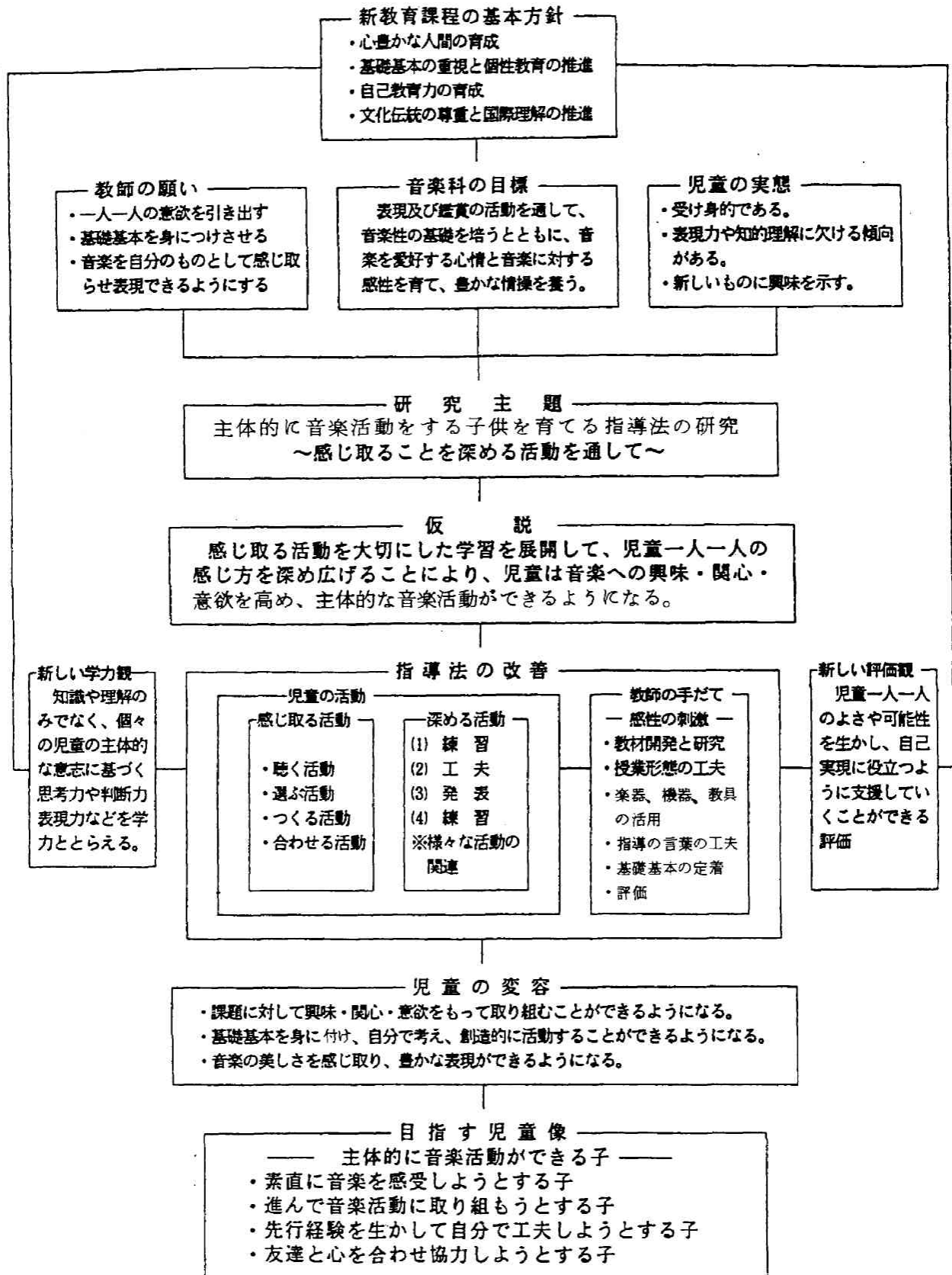
(2) 研究の中で明らかにすべきこと

*感じ取る活動・感じ取ることを深める活動の内容・方法

*主体的に音楽活動に取り組む児童を育てる手立て

*児童の学習意欲を高める教師のかかわり方

3 研究構想図



Ⅲ 研究の内容

1 研究を進めるに当たって

(1) 主体的な音楽活動

私たちは、児童の主体的に音楽活動に取り組む姿を次のようにとらえた。また、これらの活動を引き出すために、教師が児童にどのようにかかわっていくべきかについても併せて下表のようにまとめた。

| | 主体的に活動する児童の姿 | | 教師のかかわり方 |
|---|-----------------------|--------------------------------------|--|
| ① | 素直に音楽を感受しようとする。 | 一人一人が感じたことを発表し合い、いろいろな感じ方があることを認め合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態に即した教材を準備し多様な音楽に触れさせる。 ・多様な感じ方を尊重する。 |
| ② | 進んで音楽活動に取り組もうとする。 | 意欲を持って自分なりの目標や、やり方を見つけながら努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲をもって取り組む教材の開発をする。 ・課題提示の仕方を工夫する |
| ③ | 先行経験を生かして自分で工夫しようとする。 | 身に付けたことを基盤としてさらに向上しようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を定着させる。 ・課題追求の援助をし、学び方を学ばせる。 |
| ④ | 友達と心を合わせ、協力しようとする。 | 友達とのかかわりの中で、互いに認め合い、励まし合い学び合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を大切にし、お互いのよい点を認め合うよう助言する。 |

主体的に活動する児童を育てるためには、音楽活動への意欲を喚起することが大切である。児童相互で音楽学習を推進できるプロセスを組んだり、音を通して児童が話し合ったり、工夫し合う場を設定したり、ねらいに応じた学習形態を工夫したりして、児童の意欲を高め、創造的な音楽学習ができるようにすることが必要である。

(2) 感じ取ること・深めること

児童の様子を見ると、音楽を受け身的にとらえ、与えられた課題には素直に取り組むが、音楽の美しさを感じ取り、自分からよりよい表現を求めて工夫したり、練習したりすることが十分にできていない。

このような児童の実態から、私たちは、児童が課題を自分のものとして興味・関心・意欲をもって学習に取り組むためには、児童の音楽の感じ取り方を深め広げ、自分なりの表現の仕方素直に表せるようにすることが重要であると考え、「感じ取る活動」に着目して、研究を進めることにした。

| 過程 | | 児童の活動 | 学習意欲の変化 | 教師の手立て | | | | | | |
|--------|------|-------|------------------------------------|-----------|-----------|---------------|-----------|------------|---------|--|
| 感じ取る活動 | 感じる | ・聴く | 興味・関心をもつ 「いいなあ」「すてきだなあ」 | 教材提示の工夫 ↓ | 授業形態の工夫 ↓ | 楽器・機器・教具の活用 ↓ | 指導の言葉かけ ↓ | 基礎・基本の定着 ↓ | 評価の工夫 ↓ | |
| | | ・選ぶ | 意欲が生まれる 「やってみたい」 「できるかな」 | | | | | | | |
| | | ・つくる | 意欲が持続する 「こうしたらどうかな」 | | | | | | | |
| | 感じ取る | ・合わせる | 「もう一度合わせてみよう」 「次はこうしよう」 | | | | | | | |
| | | ・練習 | 創造性が発揮される 「工夫してみよう」 「変えてみよう」 | | | | | | | |
| | | ・工夫 | 「つくってみよう」 | | | | | | | |
| | 深める | ・発表 | 成就感をもつ 「表現できた」 「いい気持ち」 | | | | | | | |
| | | ・自己評価 | 「友達の演奏もよかった」 | | | | | | | |
| | | 広げる | ・相互評価 | | | | | | | 新しいものに興味・関心をもつ 「違う曲もやってみたい」 「今度はこうしたい」 |

2 感じ取ることを深める活動

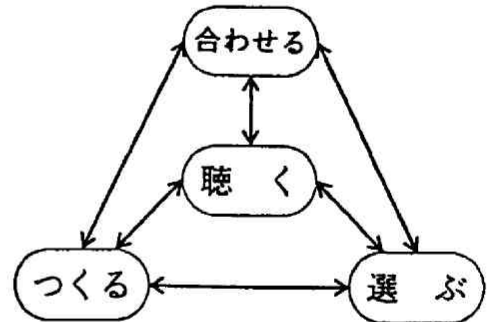
児童が主体的に音楽に取り組み、意欲をもって活動を持続するためには、音楽の感じ方を深め広げること・自分なりの表現の仕方を身に付けることが必要である。とりわけ、自分なりの感じ方を深め広げるとは、生涯にわたって音楽とかかわる上からも重要なことである。

(1) 感じ取る活動

私たちは「感じ取る活動」を、「聴く」「選ぶ」「つくる」「合わせる」の4つに分類した。

これらの活動は、単独に行われるものではなく、それぞれが相互に関連をもって進められることにより、児童は音楽をより深く感じ取り、学習への意欲を高め、持続させていくことができるのである。

(以下、項目中の「★」印は、IV指導事例の中に事例が示されているものを表す。)



—— 感じ取る活動の関連 ——

① 聴く活動

音楽のよさを感じ取り、その表現を工夫したりするための活動の第一歩は「聴く活動」である。音楽を感覚的に味わって聴いてイメージをふくらませたり、音楽を分析的に聴いて新しい発見をしたりすることにより、自分なりの表現を見出していくことができる。

[聴き取る]

ア) よいと思う表現や目指したい表現を聴き取る。

- ・ 範唱、範奏や音源ソフトを聴き、そのよさを感じ取る。

イ) 楽曲の構成や要素を聴き取る。

- ・ メモをとりながら音楽を聴き、曲の形式に気付く。

★音楽を聴いてふしの重なりを図形楽譜で表す。(事例1「ふしの重なり」)

- ・ 音楽を聴きながら身体反応をしてリズムパターンの変化に気付く。

[聴き比べる]

ア) 原曲を聴くことにより教材曲に対して一層親しみをもつ。

★民謡の原曲を聴いてそのよさを味わう。(事例2)

イ) 同一楽曲を多様な演奏形態で聴き、楽曲に親しむとともに演奏形態を理解する。

ウ) ねらいに応じて様々な曲を聴き比べる。

★それぞれの曲の共通点を探し、ふしの重なり気付く。(事例1)

〔聴き合う〕

ア) 強弱, テンポ, リズム, 楽器のバランス, 音色や音質などに視点を置いて聴き合い, よりよい表現を追究する。

★練習途中の成果を聴き合って, 改善すべき点を見付ける。(事例2・3)

イ) 互いに演奏を聴き合い, 表現の工夫やよさを認め合う。

★演奏発表や録音した演奏を聴き合い, よさを認め合う。(事例4)

② 選ぶ活動

どのように表現したいのか, なぜその音(楽器・楽曲)にするのか, 一人一人の児童の音楽の感じ方を大切にして表現のイメージをもたせ, 選ばせるようにする。

〔パートや楽器を選ぶ〕

ア) 旋律の動きやバランスに気を付けて選ぶ。

★話し合いや実際に音を出して試しながら選択する。(事例2)

〔楽曲を選ぶ〕

ア) 自分たちの演奏技能や表現のイメージを大切に, 複数の教材の中から選択する。

・「春を歌おう」などの主題に合った曲を既習曲や新曲の中から選んで学習する。

③ つくる活動

新しいものをつくり出したり曲に工夫を加えたりするためには, 児童一人一人の音楽経験や発想を生かすことが大切である。音や音楽に反応し即興的につくったり, つくった曲や表現を吟味する活動の中で, 音や音楽を感覚的に聴いたり, 分析的に聴くことにより, 音楽の聴き方を深めることができるのである。

〔リズム伴奏をつくる〕

★曲想に合ったリズム伴奏を工夫する。(事例3)

★いろいろなリズム型によりリズム伴奏をつくり, 感じの違いを味わう。(事例2)

〔旋律をつくる〕

ア) 「ふし問答」や「歌あそび」などで, 即興的にふしをつくる。

イ) 曲全体の構成を考えて, その一部分をつくる。

ウ) 拍子の特徴をつかんで旋律をつくる。

・リコーダーで3拍子の簡単な曲をつくる。

〔イメージを音にする〕

・想像した情景に合うような音を探し, それらを組み合わせて合奏する。

④ 合わせる活動

自分の音や友達の音を注意深く聴きながら合わせる活動から、よりよい表現を求める意欲が生まれる。また、友達同士心を合わせて努力し、響き合った時の喜びも大きなものになる。「合わせる活動」は、感じ取ったものをより豊かな表現に結び付ける重要な音楽活動である。

〔曲想表現を工夫して合わせる〕

ア) 音楽の要素に注目して合わせる。

- ・ブレスや音色を合わせて演奏する。
- ・テンポや強弱などの曲想表現を合わせて演奏する。

★スタッカートの部分に気を付けて、タンギングを合わせる。(事例4)

イ) お互いのバランスに気を付けて合わせる。

- ・主旋律が生きるように、音量や楽器配置を工夫する。



—— 表現を合わせて ——

〔心を合わせてアンサンブルをする〕

ア) 楽曲が生まれた背景を共通理解して演奏する。

- ・調べたり、発表し合ったりして楽曲に対する理解を深め、練習する。

イ) 表現のイメージを共有して演奏する。

★話し合い、班カードへの記入やイメージ画作成などを通して表現へのイメージを共有し、練習する。(事例1・2・3・4)



—— 心を合わせて ——

ウ) 協力し合って演奏する。

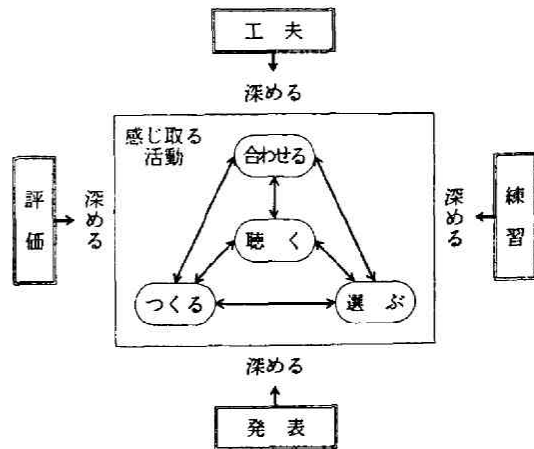
★教え合ったり、助け合ったり、認め合ったりしながら、よりよい表現を求めて練習する。(事例1・2・3・4)

★気持ちを合わせて演奏発表する。(事例4)

(2) 感じ取ることを深める活動

「聴く」「選ぶ」「つくる」「合わせる」の「感じ取る活動」を基礎に、「練習」「工夫」「発表」「評価」の4つの活動を「感じ取ることを深める活動」の内容として位置付けた。

「練習」「工夫」「発表」「評価」の4つの活動は独立してあるのではなく、互いにかかわり合い、学習の中でスパイラルに展開することにより、児童の音楽を感じ取る力を深め広げることができるのである。



— 感じ取ることを深める活動 —

それぞれの活動を進める上での留意点を以下のようにまとめた。

① 練習しながら深める

めあてに向かって繰り返し練習することにより、表現技能が高まる。また、音楽を聴く耳が育って音楽の感じ方が深まり、合わせることが楽しみになる。

- ・ステップをふんで練習ができるよう、課題の提示を工夫する。
- ・「できた」という充実感を味わわせ、「練習したい」という意欲を喚起する。
- ・教え合い、助け合って練習できるよう、学習方法を工夫する。

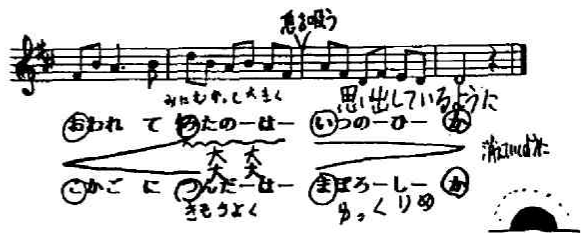
② 工夫しながら深める

二人で、グループで、全員で、いろいろな学習形態の中で、意見を出し合い、工夫しながら、よりよい表現を求めることにより、一人一人の音楽の感じ方を磨いていく。

- ・一人一人の表現したいという意欲や欲求を大切にする。
- ・ワークシートなどを活用し、工夫を具体的な形に表し共通理解が図れるようにする。
- ・常に音を通して確かめながら話し合いや工夫を進めるようにする。

| アドバイスカード (鑑賞カード) | |
|------------------|-----------------------|
| 月 日 () 年 組 氏名 | |
| ～ 班の 演奏 | 1. よかったところ |
| | 2. 自分たちの演奏にも取り入れたいところ |
| | 3. さらによくなるためのアドバイス |

— よさを認める学習カード —



— 楽譜に歌い方を記入して —

③ 発表しながら深める

考えたこと、工夫したことを皆の前で発表することを通して、表現の工夫の成果を確かめ合う。友達のいろいろに工夫された表現に触れ、音楽の感じ方を広げることができる。

- ・発表する時は、自分たちの表現への思いや工夫した点を発表してから演奏する。
- ・聴く側は、発表者の意図に対して演奏がどうであったかを中心に聴き、話し合う。
- ・演奏内容や演奏態度など、良かった点を認める評価に心がけ、児童が自信をもって発表することができるよう留意する。
- ・改善すべき点は、具体的な方法を示すようにする。
- ・失敗したことを責めたり笑ったりすることのない学級の雰囲気をつくる。
- ・発表する過程で、一つのグループの深まりを全体のものとしてとらえさせ、後から発表するグループにも生かせるようにする。

④ 評価しながら深める

評価には、教師の評価、児童自身の評価、友達の評価等があるが、音楽を自分のものとしてとらえ、音楽の感じ方を深める上で、自己評価、相互評価は重要な役割を果たす。

〔自己評価〕

- ・課題を明確にし、児童が評価しやすいようにする。
- ・学習カードなどを活用し、次の学習へのめあてや励みを得られるようにする。
- ・グループ活動の中で、自分がどうかかわれたか評価できるようにする。
- ・学習カード・学習ノートに記された工夫や演奏の反省、作品の自己評価を次時の学習に生かすことができるようにする。

〔相互評価〕

- ・聴く観点を絞ってチェックする。
- ・カードやノートに記入し、それをもとに具体的に話し合いが進められるようにする。
- ・話題になった点は、自分たちで試したり、全体で音を出して試すなどして、改善につながるようにする。
- ・お互いに相手の表現を尊重し合いながら、よりよい表現を求めるようにさせる。

| | |
|------------|----|
| 月 日 () 氏名 | |
| きょうのめあて | |
| | 進歩 |
| きょうの反省 | |

— 学習カード例 —

3 教師の手立て

(1) 教材選択・研究と指導

① 教材選択・開発

生き生きとした音楽学習を展開させるためには、児童の実態に即した教材を数多くの教材の中から選択し、児童に与えることが必要である。

ア) 児童の実態に即した教材（興味・関心や成就感の持てるもの）

イ) 題材のねらいに合った教材（多様な活動ができるよう配慮して教材群を構成する）

ウ) 表現と鑑賞の関連を考慮した教材

エ) 音楽的に価値の高いもの（音楽的な魅力が感じられるもの）

② 教材研究

教材を分析し、児童に感じ取らせる内容（楽曲の音楽的な魅力）、身に付けさせる内容（表現技能）を明らかにし、指導に生かすことが必要である。

〔感じ取らせる内容例〕

- ・音楽の諸要素…音高，強弱，リズム，速さ，拍子，調性
- ・楽曲の構成…旋律，楽曲の形式，フレーズ，和声，
- ・表現の媒体…表現している音色，音質，声の種類，楽器の編成

〔身に付けさせる内容例〕

- ・旋律の美しさを生かした，レガートな歌い方（赤とんぼ，静かにねむれ）
- ・バランスや声の響き合いに気を付けて合唱すること（小さな世界，はばたけ鳥）

③ 課題提示の工夫

児童の音楽活動は解決すべき学習課題を認識した時から始まる。課題提示の仕方の工夫を行うことにより、興味・関心が高まり、児童は音楽に主体的にかかわるようになる。

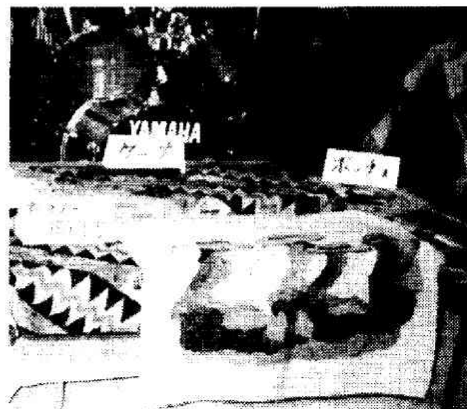
ア) 音楽で課題を提示する。

〔例〕「パッヘルベルのカノン」では、テーマを繰り返し聴くことにより、ふしの重なりのおもしろさを味わって鑑賞することができた。

イ) 資料によって関心を高める。

〔例〕「アンデスの祭」では、いろいろな民俗楽器やボンチョを展示し、関心を高めた。

ウ) 教師の語りかけでイメージをふくらませる。



— 「アンデスの祭」の資料 —

(2) 授業形態の工夫

授業の形態を学習の内容に応じて工夫することにより、効果的な指導が可能になる。また、児童が生き生きと活動することができる。

① 一斉学習の形態

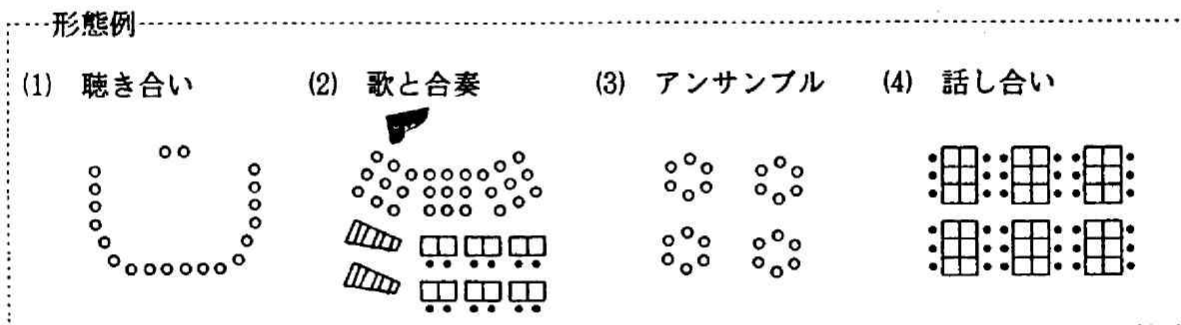
知識や技能を学級全体に徹底させるには、一斉指導が大変効果的である。児童が受け身にならないよう、パート別練習や話し合いを組み入れる等の工夫をする必要がある。

〔例〕「鳥と少年」では、合唱・合奏・合唱奏の練習の過程で、学習形態に変化をつけ、学習の効果をあげることができた。(下図(2))

② 小集団学習の形態

個別・ペア・グループ学習等の少人数の学習形態では、一人一人の児童の特性や学び方が生かされ、児童は伸び伸びと音楽活動に取り組むことができる。

〔例〕「かっこうとろば」の学習では、リコーダーの二重奏に取り組ませた。ペアになった二人は、お互いに気持ちや呼吸をそろえようと真剣に学習に取り組んでいた。(事例4)



(3) 楽器・機器・教具の活用

授業のねらいを的確に把握したり、児童が自分の思いを実際に音として表現したりする上で楽器を含めた教具の機器の活用は重要である。

① 視聴覚機器 (LD, VTR, OHP)

〔例〕「鳥と少年」では、前時の復習としてOHPシートに幾つかのパートを書き、ふさわしい楽器を見つけさせるよう工夫した。

② シンセサイザー

〔例〕「ボギー大佐」では、速さを変えたり、繰り返し聴かせたりすることができ、旋律を図形楽譜で表すのに効果的だった。(事例1)

| | 音域 | ふいりかんじやくのりなど | 演奏する楽器 |
|---|----|----------------------------|----------------|
| ① | | もとになるXロディー | けんぱん ハーモニカ |
| ② | | おいかけている 高い音 | リコーダー クローケン |
| ③ | | のびてる、きれい 低め、なめらか | アコディオン てっくん |
| ④ | | くり返している はねてる かなりむくい音 | 木琴 |
| ⑤ | | 土台 | バスマスター |

— OHPシート「鳥と少年」 —

(4) 指導の言葉かけ

学習過程で意欲付けや考えを深めていくようにするために教師の「言葉かけ」は大切なポイントである。授業実践の中では次のような言葉かけによって児童の意欲を喚起したり、感じ方を深め広げることができた。

〔例〕

- ・「どんな音楽が聴けるか楽しみです」……………（演奏発表への意欲付け）
- ・「自分が演奏したあと何か言ってもらえると嬉しいよね」…（演奏を聴く態勢づくり）
- ・「木琴は何故そういう叩き方をしたのかな」……………（表現意図や奏法の工夫を明らかに）
- ・「このようなイメージの音が欲しいからこの楽器を選んだ、と言えるように考えてみよう」……………（自分なりの表現をうながす）
- ・「とてもいい演奏だったね。皆もがんばって」……………（賞賛と励まし）

(5) 基礎・基本の定着

基礎・基本というと、技能や知識の側面にばかりに目を奪われやすいが、思考、判断、関心、意欲、態度などの側面も重要な内容である。音楽では、課題追及の過程において表現手段としての技術は必要不可欠のものであるが、その習得のみに目標をおくのではなく、友達同士協力し合ったり、工夫し合ったりして、無理なく、楽しみながら身に付けられるよう工夫することが大切である。

① 題材の指導を通して

〔例〕「リズム伴奏を工夫し、曲の感じを変よう」

「竹田の子守歌」の学習では、毎時間継続してきたリズム学習の成果が生かされ、グループでの楽器選びやリズムセクションを作ったリズム創作、リズムを生かした表現の工夫など、学習が効果的に進められた。（事例2）



— リズムセクションの工夫 —

② 常時活動を通して

年間を通して毎時間少しずつ学習を積み重ねていくもの。

- ・「今月の歌」や「愛唱歌」等を通してレパートリーをふやし、生活に潤いを持たせる。
- ・発声の仕方を身に付けさせたり、リズム感を養ったりする。

(6) 評価の工夫

新教育課程の趣旨を生かした教育を進めていくため、児童のよさや可能性を積極的に見付け伸ばしていく評価のポイント、具体的な方法を次のようにまとめ実践した。

① 評価のポイント

ア) 評価規準や評価の観点を明確にし、評価する。

指導計画・評価計画を立て、指導したことについては必ず評価を実施する。

イ) 学習の過程を大切にし、評価する。

毎時間毎時間の児童の活動の様子や表現に目や耳を傾け、評価する。

ウ) 指導に生きる評価をする。

「このように表したい」という児童の気持ちや感性を大切にして評価し、次の学習のめあてをつかませたり、学習意欲の向上につながるようにする。

② 具体的な評価の方法

ア) 観察とチェックリスト

児童の活動の様子を授業の中で観察してチェックし、記録を集積する。

〔例〕リコーダーの二重奏の学習↓

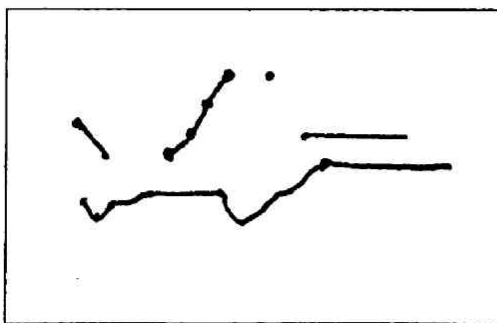
| 氏名 | 取組の様子 | #の運指 | 息づかい | タンギング | 合わせ方(二人で) |
|-----|-------|------|------|-------|---------------------|
| M・O | ◎ | ○ | ◎ | ○ | プレスをタイミングよく合わせてできた。 |

◎大変意欲的・確実にできる ○おおむね意欲的・できる △もうすこし

イ) 学習カード・メモ

学習カードや児童の一口メモで興味・関心・意欲や学習の成果を確認する。

〔例〕自己評価カード⇒



| 自己評価カード | | 年 組 _____ | | |
|---------|-----------|-----------|--------|-------|
| 曲名 | _____ | | 楽器 | _____ |
| 書き方 | ◎よくできた | ○できた | △もうすこし | |
| 月日 | 学習のめあて | 評価 | かんそう | |
| | 自分() | | | |
| | () 全体() | | | |

ウ) 作品

児童が作った音楽、図形楽譜等から評価する。

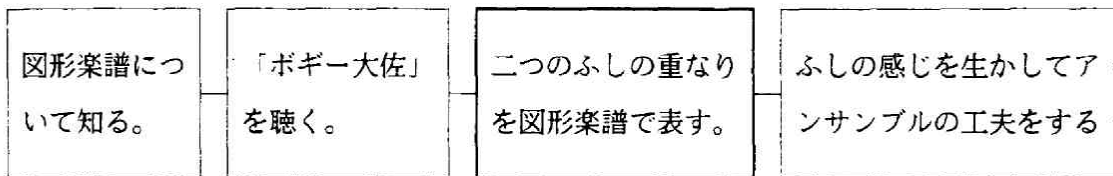
⇐〔例〕「二つのふしの特徴を感じ取る」活動

・主旋律や副旋律の特徴をとらえているか。

IV 指導事例

1 聴く活動を中心にして (第6学年)

- (1) 題材「ふしの重なり」
- (2) 教材「ファランドール」「ポロネーズ」「ボギー大佐」
- (3) 学習の流れ



(4) 本時の展開 (6時間扱い 第3時の指導)

| 感じ取る活動 | 学習内容 | 深める活動 | 教師の手だて |
|--------|---|---|--|
| 聴く活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ポロネーズ」「ファランドール」を聴いて共通点を見つける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考えを持つ。 ・二つの旋律が重なっていることに気付く。 <話し合いながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・自由に発表できるように「同じ意見」「違った意見」も大切にする。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・二つの曲の図形楽譜例を見て、旋律の動きを感じ取る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴きながら旋律線をなぞる。 ・ふしの変化を聴き取る。 <練習しながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きに着目して図の変化をハンドサインで表したりして、ふしの変化をとらえることができるようにする。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「ボギー大佐」を図形楽譜に表す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ふしの重なりを表そう</div> | <ul style="list-style-type: none"> ・聴きながらグループでワークシートに書き表す。 <p style="text-align: center;"><練習しながら></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・シンセサイザーにテーマを入力しておき、繰り返し再生する。 ・主旋律、対旋律を色分けして記するようにする。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった図形楽譜を見ながら「ボギー大佐」を聴く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな書き方があることに気付く。 <発表しながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの図形楽譜を紹介する。 ・ポイントを説明する。 |

(5) 児童の変容

- 図形楽譜を書くことにより
- (1) 音により集中して、積極的に聴こうとする意欲が育った。
 - (2) 二つのふしの重なりをより明確に聴き取ることができた。
 - (3) アンサンブルでも互いの音をよく聴き合うようになった。

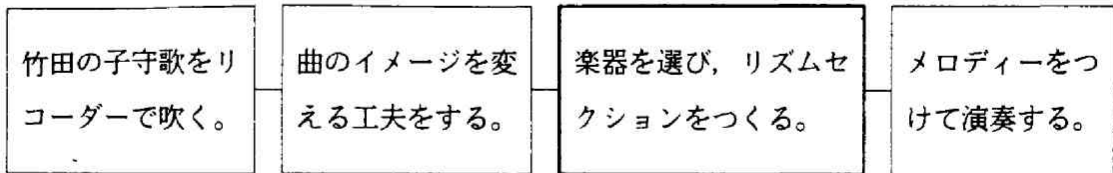
(6) 考察

- ・「ファランドール」「ポロネーズ」は、ふしの重なりを気付かせるには難しかった。
- ・音を視覚的にとらえて表す図形楽譜は、聴き方を深めるのに大変効果的な方法だった。
- ・シンセサイザーの活用は、児童の興味・関心を高めたり、指導の効果・効率を高めるのに大変効果があった。

| 児童の反応 | 評価の観点 | 評価方法 |
|--|--|----------------------------|
| ・何回か聴くうちに「ふしが重なっている」ことに気付く。 | ・意欲的に聴こうとしているか。 (観点1 関心・意欲・態度) | ・観察 (表情) |
| 「図形楽譜を見るとわかりやすいね」 | ・図形楽譜と旋律の動きの一致をとらえられたか。 (観点2 感受・工夫) ・ふしの変化を聴き取ることができたか。 (観点2 感受・工夫) | ・観察 (動き) |
| 「もっと聴かせて」 ・真剣に聴きながら書く。 ・旋律を口ずさんでいる。 ・グループで相談している。 | ・旋律の特徴を感じて書いているか。 (観点1 関心・意欲・態度) (観点2 感受・工夫) | ・観察 (グループ活動) ・ワークシート |
| 「○班の書き方、面白いね」 ・口ずさみながら聴く。 ・旋律線をなぞりながら聴く。 | ・ふしの重なりをとらえて聴けたか。(観点2 感受・工夫) ・他のグループの面白さを認められたか。(観点4 鑑賞) | ・チェックリスト |

2 選ぶ活動を中心にして (第5学年)

- (1) 題材「打楽器を選んで曲の感じを変えよう」
- (2) 教材「竹田の子守歌」
- (3) 学習の流れ



(4) 本時の展開 (6時間扱い 第4, 5時の指導)

| 感じ取る活動 | 学習内容 | 深める活動 | 教師の手立て |
|--------|--|--|--|
| 選ぶ活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなリズム打ちをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムパターンに合わせて好きな楽器を鳴らす。 <練習しながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・リラックスできる雰囲気をつくる。 ・ピアノで伴奏する。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 打楽器を選び、リズムセクションをつくろう </div> | | |
| 合わせる活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、楽器を選ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心になる楽器を選ぶ。 <練習・工夫しながら> ・合わせる楽器を選ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの打楽器を試すことができるようにする ・奏法により、いろいろな表現ができることを範奏で示す。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ楽器でリズムセクションを作って練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループで工夫したイメージに合うリズムセクションをつくり練習する。 <練習・工夫しながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・練習の方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 練習 → 工夫 ↑ ↓ 他のグループを聴く </div> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・演奏を聴き合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発表し合う。 <評価・発表しながら> | <ul style="list-style-type: none"> ・感想メモを準備し、めあてをもって聴くことができるようにする。 |

(5) 児童の変容

- 楽器を選ぶ活動により ① 奏法やリズム, 合わせる楽器によって違った表現になることに気付いた。
- ② いろいろな曲に対して, 常に工夫してみようとする意欲が高まった。

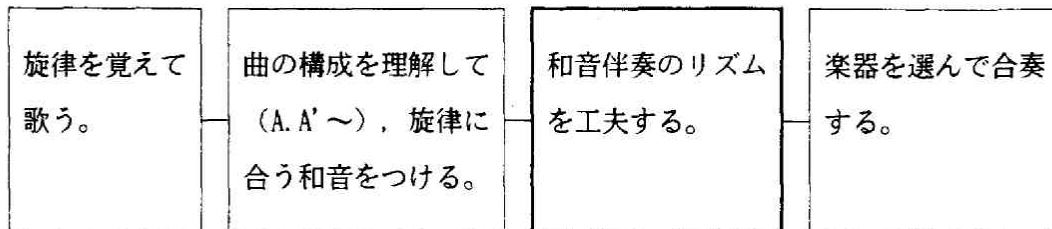
(6) 考察

- ・常時活動を通してリズム学習を積み重ねていたことが, より効果的な楽器選び, リズム創作につながった。
- ・楽器を選ぶ事によって, 楽器の特性を知り表現活動への意欲が高まった。

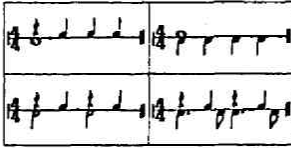
| 児童の反応 | 評価の観点 | 評価方法 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・進んでラテン楽器に取り組み演奏する。 ・リズムに乗って体が動いている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって打っていたか。 (観点1 関心・意欲・態度) ・リズムにのって打っていたか。 (観点2 感受・工夫) | <ul style="list-style-type: none"> ・観察 (動き) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・サンバ風…707タム, 和, クラス等 ・ルンバ風…コンガ, タム, ボゴ等 ・お祭り風…大太鼓, タンブリン カウベル 等 ・「ルンバ風の楽しい雰囲気を出すために, 二人にしてみよう」 ・「お祭りの行列が近づくように少しずつ楽器を加えよう」 ・「指揮者がいないと揃わないね」 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に話し合っていたか。 (観点1 関心・意欲・態度) ・イメージに合った楽器を選び, 練習していたか。 (観点2 感受・工夫) | <ul style="list-style-type: none"> ・観察 (グループ活動) ・観察, 演奏 (グループ活動) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「タムを使ったのが良かった」 ・「リズムががとても楽しい」 ・「他のクラスの演奏も聴きたいな」 | <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの良さを認められたか。(観点2 感受・工夫) ・他のグループの良さを認められたか。(観点4 鑑賞) | <ul style="list-style-type: none"> ・意見発表 ・感想メモ |

3 つくる活動を中心にして (第5学年)

- (1) 題材「ふしと伴奏」
- (2) 教材「静かにねむれ」
- (3) 学習の流れ



(4) 本時の展開 (6時間扱い 第3時の指導)


| 感じ取る活動 | 学習内容 | 深める活動 | 教師の手だて |
|--------|--|---|--|
| つくる活動 | ・ A に合うリズム伴奏をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">和音伴奏のリズムを工夫しよう</div> | ・ リズム打ちをしながらつくる。 <工夫しながら> | ・ 参考例をピアノなどで演奏する。  |
| | ・ A' に合うリズム伴奏を考える。 | ・ A を元にして, 工夫する。 <工夫しながら> | ・ 「A は A' と兄弟のふしだからね。」と言葉かけをし, 少し変化したリズムができるようにする。 |
| 合わせる活動 | ・ B に合うリズム伴奏をつくる。 | ・ 曲想の変化に合った, リズムをつくる。 <工夫しながら> | 「ガラッと変えてみたら。」 |
| | ・ 合わせて確かめる。(楽器を使って) | ・ 曲を通して演奏し, つくったリズムを確かめる。 <練習しながら> | ・ 「曲全体の流れに合っているかな。」 ・ 数種類の楽器を用意する。 |
| 動 | ・ 演奏を聴き合う。 | ・ グループで発表する。 <発表しながら> | ・ よさや次時の学習に生きる意見の発表を促す。 |

(5) 児童の変容

- 伴奏をつくる活動により
- ① 曲の構成をより深くとらえられるようになった。
 - ② 合奏での曲想表現が深まった。
 - ③ リズムと和音の果たす役割に目が向けられるようになり、音楽的な理解が深まった。

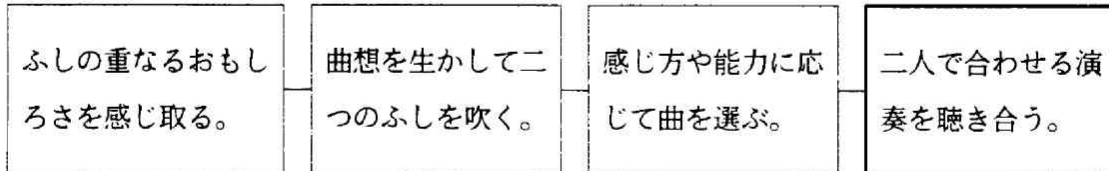
(6) 考察

- ・つくる活動は、日頃からのリズム活動や和音の基礎的な積み重ねが重要であることが分かった。
- ・つくる活動は、完成への期待が原動力になって、児童の意欲を高め、音楽活動が生き生きとしたものとなった。児童は仕上げた喜びを味わっていた。

| | 児童の反応 | 評価の観点 | 評価方法 |
|--|--|--|--|
| <p>手 や 足 で 打 ち な が ら 相 談</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「こんなのはどう」 ・「それいいね」 ・「いろいろあるね」 ・グループで相談・練習をはじめめる。 ・「Aと少し似ていないといけないな」 ・「終わりの部分が違うんだよ」 ・「全然違うのにしようか」 ・「はでにしちゃおう」 ・ワークシートにつくったリズムを記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてや意欲をもつことができたか。 (観点1 関心・意欲・態度) ・主旋律に合うリズム伴奏を工夫することができたか。 (観点2 感受・工夫) ・グループで協力して活動しているか。 (観点3 表現の技能) ・グループで協力して活動しているか。 (観点1 関心・意欲・態度) | <ul style="list-style-type: none"> ・観察やワークシート ・演奏 グループ間を巡視し、工夫の内容を聴き評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律とリズム伴奏を合わせて練習している。 |  | | |
| <p>「〇〇グループの方がいいな」</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの良さを認める。 (観点4 鑑賞の能力) | <ul style="list-style-type: none"> ・意見発表 |

4 合わせる活動を中心にして (第4学年)

- (1) 題材「ふしを重ねてアンサンブルをしよう」
 (2) 教材 リコーダーの二重奏曲「たこたこあがれ」「メリーさんのひつじ」
 「かっこうとろば」「ロシアの子もり歌」
 (3) 学習の流れ



(4) 本時の展開 (5時間扱いの第4時の指導)

| 感じ取る活動 | 学習内容 | 深める活動 | 教師の手立て |
|--------|---|--|---|
| 聴く活動 | <ul style="list-style-type: none"> 二つの吹き方を聴く。 息づかいを合わせて吹くと気持ちが良いことに気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> 二通りの二重奏を聴く。 <話し合いながら> | <ul style="list-style-type: none"> 1回目…良い吹き方 2回目…良くない吹き方 「どうして気持ちがいいのかな」 |
| 合わせる活動 | <ul style="list-style-type: none"> 二人で合わせる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">息の強さを合わせて吹こう</div> <ul style="list-style-type: none"> 息づかいの工夫をする。 <練習しながら> | <ul style="list-style-type: none"> お互いの音が聴こえるように場を設定する。 「二人の息の強さをそろえてごらん」 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 演奏を聴き合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 発表する。 <発表しながら> <評価しながら> | <ul style="list-style-type: none"> よかった点、改めた方がよい点を聴き取るようにする。 |

(5) 児童の変容

- 合わせる活動により ① 音程に気をつけて演奏するようになった。
② パートナーの音を聴いて合わせようとする意欲が高まった。
③ 自分たちでアンサンブルを楽しむようになった。

(6) 考察

- ・教材を児童の実態に合わせて用意し選ばせたので、意欲的に取り組めた。
- ・二声の響きを感じ取らせるのに、ペア学習でのアンサンブル活動は適切だった。
- ・聴くめあてを持たせる言葉かけをすることによって、児童から多様な意見を引き出すことができた。
- ・サイン、学習カードによる評価は、児童が積極的に学習にかかわるきっかけを作った。

| 児童の反応 | 評価の観点 | 評価方法 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・「1回目の方がいい」・「タンギングをうまくやるといい」・「息の強さを揃えるといい」 | <ul style="list-style-type: none">・二つの吹き方が聴き分けられているか。 (観点4 鑑賞の能力) | <ul style="list-style-type: none">・観察 (聴き分けられた子を立たせる)・意見発表 |
| <ul style="list-style-type: none">・「ビーと響いた」・「息の強さが合っていないよ」 | <ul style="list-style-type: none">・意欲的に活動しているか。 (観点1 関心・意欲・態度)・課題に対して工夫しながら活動しているか。 (観点2 感受や工夫) | <ul style="list-style-type: none">・学習カードでチェック |
| <ul style="list-style-type: none">・「〇〇さんの方がちょっと息が強かった」・「最後の音が合わなかった」・「息が続かなくて、音が変わってしまった」・「2回目はとても良く合い、きれいだった」 | <ul style="list-style-type: none">・課題が達成されているか。・自己表現しようとしているか。 (観点3 表現の技能)・友だちの発表の良さに共感しているか。 (観点4 鑑賞の能力) | <ul style="list-style-type: none">・観察 (○△×のサインで表す)・意見発表 |

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

研究主題「主体的に音楽活動をする子供を育てる指導法の研究」に迫るため、～感じ取ることを深める活動～を副主題として「感じ取ること」に焦点を当て、その内容や「深める活動」「教師の手立て」について研究を進めてきた。その結果、以下のことを成果として得ることができた。

- ・「感じ取る活動」「深める活動」を定着することにより、音楽に対する感じ方や学び方が深まり、意欲的に音楽活動しようとする態度が育った。
- ・音や音楽を感覚的に聴いたり、要素を聴き取るために注意深く鑑賞したりする経験を重ねたことで、音に対する関心が高まり、音楽のよさを聴き取ろうとする姿勢がみられた。
- ・楽曲の教材研究や分析を深めることにより、普段、なにげなく指導してしまっていた曲も指導のねらいが明確になり、児童も学習に取り組む意欲がわき、よりよい表現を目指すようになった。
- ・今まで画一的になりがちであった学習指導を、学習形態をいろいろ工夫することにより、児童一人一人のよさが見えはじめ、適切な評価・支援ができるようになった。児童も生き生きと活動するようになった。
- ・学習活動における教師の温かい励ましや賞賛により、児童がさらに意欲を持って課題に取り組むことが分かった。

2 今後の課題

「感じ取ること深める活動」を重視した指導を、授業を通して研究・実践したことにより、児童が主体的に音楽活動に取り組むように変容してきた。しかし、次のような課題が残されている。

- ・児童一人一人が感じ取った音楽を十分に引き出す指導の工夫、児童一人一人の学習意欲を高めていくことのできる評価の方法を更に深めていくこと。
- ・児童が興味・関心を持って取り組むことのできる教材の開発や研究をさらに継続すること。
- ・多様な音楽活動に対応できる基礎・基本の定着を図ること。
- ・音楽の活動の場を広げ、児童の学校生活を明るく豊かにすること。

今後もこれらの残された課題を解明するため、研究を継続していきたいと考えている。